



「子ども平和会議」参加報告



平和への思いを込めた 「アピール文」をご覧ください

「子ども平和会議」で子どもたちが話し合った内容は、会議で議長を務めた広島県・長崎県の高校生たちが、「アピール文」としてまとめ、ピースアクションinヒロシマ・ナガサキのステージイベント「虹のひろば」にて発表しました。特設サイトで公開されている虹のひろばのLIVE配信（アーカイブ）からアピール文の全文をご覧ください。



コープながのは、未来の担い手である子どもたちに、平和について学び、考える機会にしてほしいとの願いを込め、“ピースアクションinヒロシマ・ナガサキ”連携企画「子ども平和会議」へ2人のお子さんを代表派遣しました。

代表2人は6月に、事前学習として、松代大本営象山地下壕を見学、地域の戦争の歴史を学び、8月、広島にて開催された会議に臨みました。会議では、「戦争や核兵器の使用など、争いごとをなくすために私たちができること」をテーマに子どもたちが話し合いました。

8月30日（土）に開催したコープながのの報告会では、子ども平和会議に参加した久保陽愛さん（中1）、森泉絃太さん（小6）が、今回学んだことを丸山理事長に報告しました。その様子をご紹介します。

※被爆体験の継承や核兵器のない世界への思いを共有する場として、広島県生協連・長崎県生協連と、日本生協連が毎年開催している平和企画です。

久保陽愛さん

子ども平和会議の話し合いで「平和とはなんだろう？」という話題がありました。私が考える「平和」は、笑顔あふれる普段の日常です。平和なくらしを守るために大切なのは、戦争の記憶を発信し、伝えていくことだと思います。戦争の記憶が風化すれば、戦争の恐ろしさを知る人がいなくなり、また戦争が起きて、罪のない人の命が奪われてしまいます。戦争がなくなっただけでは「平和」とは言いえないかもしれません。それでも多くの人を傷つける戦争は、なくなしてほしいと思います。



森泉絃太さん

広島では、会議のほかにも平和記念公園内の碑めぐりをしたり、平和記念資料館に行ったり、被爆者の方のお話を聞いたりする機会がありました。平和祈念式典も見学し、子ども代表のスピーチの「戦争をとめる手助けになるような、平和の架け橋になりたい」という言葉が心に残りました。原爆について学習する中で、原爆の怖さや悲惨さを知り、戦争は絶対にやってはいけないことだ、という気持ちになりました。僕も自分で考え、平和を作っていく一員になりたいと思いました。



2人の発表を聞いて 丸山理事長

とても多くの学びがあったのだとわかるすばらしい発表でした。森泉さんの「平和を作っていく一員に」という言葉はとてもうれしく感じましたし、久保さんは広島から戻ったあと、今世界で起きている戦争にも目を向け、新聞を読んで考えを深めたそうで、そのことにも感銘を受けました。今回2人は広島で、原爆による被害を学びましたが、それにつながる戦争の歴史はとても複雑で、いろいろな側面があります。さらに学びを広げてほしいと思います。

